

あとがき

本書の経緯については序章で詳しく述べた。序章で書かなかったことは、「著者が語る社会調査テキスト『入門・社会調査法』」（『社会と調査』No. 25, 2020年9月）に書いたのと同じように、今回の書籍の執筆においてもまた執筆者の間でしばしば緊張感のある論議が生じていたことくらいであろうか。内部での考え方の大きな相違は必ずしも愉快的こととは言えないが、多面的な視角を失わない為に必要なことであろう。

この書籍の完成度がどうであれ、これまで多くの方々からさまざまなご助力をいただいたことは言うまでもない。それが活かされていないとすればひとえに我々の非力さ故である。真鍋一史先生は、いつまでたっても勉強不足である我々の調査法研究に対して常に忍耐強く温かな励ましをいただいた。前田忠彦先生には、御多忙の中、無作為2020年調査の為の仕様策定委員をお引受けいただき、簡にして要を得た御指摘をいただいた。西澤由隆先生には、イタリアの選挙調査や政治科学におけるサーベイ研究の動向についてお教えいただいた。荒牧草平先生には3モード比較調査で研究分担者をお引受けいただいた後もLimeSurveyを用いた御自身の調査実践や統計学・Rについて、しばしば視野を広げるヒントをいただいた。保田時男先生や三輪哲先生、稲葉昭英先生、吉田崇先生にも学会大会の場などで有益なコメントをいただいた。原美和子さんや萩原潤治さんをはじめNHK放送文化研究所世論調査部の方々からは方法論的調査の現場について有益なお話を聞かせていただいた。また、面倒で注文の多い調査実施をお引受けいただいた調査会社の皆様の御尽力と、そして何よりも、調査のお願いに快く応じて下さった回答者の皆様の御厚意なしには、我々の調査研究は到底実現しえなかった。具体的にお名前を挙げられなかった皆様も含めて、心より感謝申し上げたい。最後に、出版事情がきわめて厳しいなかで、読者限られるであろう本書の出版をお引き受けいただいた法律文化社と、担当の八木達也氏にも厚く御礼申し上げる。

なお、複数の調査を実施し、しかもそれらにはウェブと紙や無作為提示のバージョンに応じて数種類の調査票を用いているが、本書にすべての調査票を収録することはできなかった。調査票を含め、調査の基礎情報提供のため、本書の補遺のウェブサイトを用意する予定である (https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/sugino/mixed_mode.html)。

※本研究は JSPS 科研費 JP18H03649 のほか、JP22H00070, JP25285147, JP16H03689 の助成を受けたものです。